

令和5年度 南陽市立宮内中学校 教育大綱

南陽市立宮内中学校

教育の目的は「人格の完成、国家・社会の形成者として必要な資質の育成（教育基本法）」、即ち「自立した共同体」を支える「自立した個人（経済的、精神的、社会的に自立した主権者＝引き受けて考え理性を尊重する成熟した市民）」を育成することである。このことを踏まえ、「地域を見つめ郷土を大切にするとともに、広い視野で考え正しい行動ができる。」「地域社会の発展に主体的に貢献し変化を創り出す。」「自らの将来に向かって自己実現を図りながらたくましく生きぬく。」そうした、社会力のある自立した人間への基礎づくりを目指し、生徒が育つ教育を行う。

1 教育目標

《校是》 愛校 自主自律

- ◎ 意欲に満ち 知性と実践力に 富む生徒 (英 知)
- ◎ 心身をきたえ 健康でたくましく 生きぬく生徒 (鍛 錬)
- ◎ 思いやりの心をひらき 協力しあって 伸びていく生徒 (共 生)

2 経営の理念

全職員が教育公務員としての使命感と責任感を持ち、常に研鑽に励むと共に、叡智を結集して信頼と協働のもと積極的に学校経営に参画し、学校の伝統や地域の良さを生かしながら、全教育活動を通して学校教育目標の具現に努め、生徒一人一人が個性的で豊かな資質を开花させ「志あふれた生きぬく力」を培えるよう支援する。

3 経営の方針

- ◎ 南陽市第6次総合計画及び第六次南陽市教育振興計画、「南陽市の教育」の具現化を踏まえながら、生徒主体の生徒が育つ学校を創造する。
- ◎ どの生徒もかけがえのない存在として大切にし、一人一人の状況、心理、背景を十分に把握しながら多様性を理解し、良さを見出し磨き伸ばすようにする。
- ◎ 教育活動全般において、相互に人間として無条件に尊重し合う態度でありのままに自分を語り、理解し合う人間関係【共感的人間関係】をつくりながら、自分は価値ある存在であること【自己存在感】を実感させる場を工夫し、常に『相手』と『自分』の両者を中心にすえながら、自分で判断して決断して実行【自己決定】させることを大切にする。そのために、基盤となる学級・学年を安全で安心な居場所【安全安心な居場所づくり】となるよう十分に配慮する。
- ◎ 「正しい」判断と行動ができるよう、「ねらい（何のために）」を明確に持ち、生徒にも理解させながら、「考えさせる」ことを通して「自立」の精神を育み、「自己分析・自己指導・自己決定・自力解決」の経験を大切にする。
- ◎ 生徒たちに損得によらない内発的な動機を喚起し、学ぶ楽しさの実感が次の学びの意欲につながる学習指導を行う。
- ◎ 未来を生きる生徒の「学び方」「生き方」の土台づくりをしているという責任の重さを自覚し、自らを律し相互に高め合いながら職務を全うする。

- ◎ 報告・連絡・相談＋確認の励行と教育観・指導観のすり合わせにより組織力を高め、全職員が全生徒の担任という意識のもと、それぞれの個性を尊重しながら補完し合い、協働に徹する。
- ◎ 家庭、地域、幼保小とのかかわりを大切にし、協力して教育にあたる。また、学校運営協議会の趣旨に則りながら、会の充実に努める。
- ◎ ウイズコロナを踏まえ、生徒・教職員の心身に十分配慮した教育活動を行う。

4 めざす学校像：「生徒が育つ学校の創造」

- ◎ 地域・保護者から信頼される学校
 - 意欲と学力の向上、自尊感情・自己効力感の高まり、進路希望の実現
授業の充実、多面的な生徒理解、指導力の向上、情報提供、家庭・地域との連携、率先垂範、ひたむきさ、使命感、協働
- ◎ 愛校心、愛郷心の育つ学校
 - 伝統の構築、環境整備、地域総合型教育の推進、地域への主体的な関わり、地域材の活用、学校運営協議会の充実
- ◎ 自己実現をめざす活力溢れる学校
 - 伸長補短、思いや夢の尊重、対話と表現活動の充実、自律と自立に繋がる自己決定力の向上、自己存在感・自己有用感を伴う共感的人間関係づくり、達成感・満足感のある取組、キャリア教育の推進

5 めざす生徒像

- ◎ 英知
 - ・ 個性を磨き豊かな発想によって物事に対応し変化を創造できる生徒
 - ・ 意欲を持って何事にも挑戦し学び続けることができる生徒
 - ・ 自ら学び、考え、判断し、正しい行動ができる生徒
- ◎ 鍛錬
 - ・ 心と身体を鍛え、心身ともに健康な生徒
 - ・ 困難に屈せず粘り強く人生を切り拓いていく生徒
- ◎ 共生
 - ・ 自然や人の心の美しさを知り、明るく生きる生徒
 - ・ 地域や身近な人に思いを寄せ、相手の立場を考えて行動できる生徒
 - ・ 周りの人と力を合わせ、常に向上を目指して努力する生徒

6 生徒の指針

- ◎ 「宮中生」としての自覚と誇りを持つよう (愛校心)
- ◎ 学習に最善をつくそう (学習意欲・学力の向上)
- ◎ 正しいことには勇気を持ってがんばろう (規範意識)

7 経営の重点：R5 キーワード「考える、想像することで自らを律する」

- ◎ 生徒指導の3機能と居場所づくりを生かした人間関係の構築
- ◎ 「正しさ」に基づいた自己決定、自己指導、自力解決を促す関わり

- ◎ 内発的な動機による主体的な学びの喚起と進路希望実現に資する取組み
- ◎ 自主自律の基本（「あいさつ」「時間・マナーとルール遵守」）の理解と徹底
- ◎ 地域を愛し、地域に愛される生徒の育成・・・社会的評価を生かす
- ◎ ウェルビーイングな職員室づくり

(1) 学習の自立・思考力を育む学習指導

- 学習指導要領に基づいた指導改善と工夫－教科目標の具現化
- 「学ぶ」意義の明確化による動機付け－「つながり」を意識した単元構成
- 力のつく授業－明確な「ねらい」、適切な「課題提示」「まとめ」「評価」
- 個に応じた指導、特別支援教育の充実－多様な認知特性・学びのリズムへの対応、環境構成や個別支援の工夫、コグトレやさがし算による認知能力の向上
- ICT教育の充実－タブレットやICT機器を活用した授業、オンラインによる授業への挑戦と指導力向上
- 家庭学習の習慣化と充実－授業での「学び」と家庭での「学び」の連携、学習意欲と自己学習力を鍛える課題の工夫
- 基礎、基本の確実な習得と活用－特別学習の展開、実生活や社会・職業との関連づけ
- 探究的な学びの追究
- 理数教育、国際理解教育の推進

生活、職業、既習内容、他教科等とのつながりから「学ぶ」意義を見出せるように単元構成を工夫し、「主体的学び」「対話的学び」「深い学び」の視点で授業改善に取り組むと共に、家庭学習の充実を通して自学力の向上を図っていく。知らないことに次々出会う「学び」の面白さの実感や己の無知を知っているからこそ学びたいという、内発的な動機によって意欲が喚起される姿を目指す。

(2) 自律と自立をうながす生徒指導

- 自己存在感・自己有用感への配慮－深い生徒理解に基づく適切なかかわり、良さを「認め」「生かし」「伸ばす」働きかけ
- 規範意識の醸成と自己指導力の向上－自己を振り返る機会の設定、正しい行動と生活のあり方に導く粘り強い指導
- いじめ・不登校の未然防止、早期解決－実効あるコミュニケーション・アンケート・教育相談、危機への高い感度と複数の眼での見取り、情報の共有
- 主体性と、自力解決力の向上－ねらいとつける力を明確にした特別活動、対話による自己決定とプロセスで力をつける生徒会・学級会活動
- 深い生徒理解と洞察力－家庭環境を含めた生徒個々の背景に潜む課題を適切に把握し、生徒に勇気を与える指導
- 多様性を生かす指導の工夫
- 創造性に裏付けられた主体性の涵養と放任・任せきりでない指導の区別

実体験を伴う活動を通して、自尊感情・自己効力感を高めていくと共に、自己指導力・自力解決力を育み、自律心を高めていく。生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感・自己有用感、共感的人間関係）を生かした指導展開を図り、日常生活の課題解決と向上、主体的に創り上げる行事に向けた対話を重視した生徒会・学級会活動の実践により、「正しさ」に基づく行動規範を確立し、人とかかわる力やコミュニケーション力の育成を図る。

(3) 自己実現を目指した進路指導

- あり方生き方指導の充実と社会人として必要な力の育成－3年間の見通しのもと教育活動全体で取り組む系統的なキャリア教育
- 自立し社会に貢献する意欲の醸成－社会参画活動・ボランティア活動の推進

- 主体的な進路選択能力の育成－望ましい「勤労観」「職業観」の育成を図る職場体験、進路実現に向けた細やかなサポート

早い時期から自己理解を深めるとともに、進路意識を高め、将来に対して志を高く持ち、自己の能力を最大限に発揮して希望実現にむけ学習に取り組む姿勢をつくる。社会力の実践の場として、職場体験やボランティア等、社会や地域とかかわりのある体験学習に積極的に取り組むことにより、多くの人々のあり方生き方や考え方を学び、将来に向かって自己実現を図ろうと努力する意識を育てる。

(4) 心と身体を育てる「いのち」の教育の推進

- 豊かな情操の育成－道徳教育の充実、心揺さぶる自然・人・芸術・文化との触れ合い、文化活動の充実
- 安全で自律した生活の基盤づくり－基本的生活習慣の定着、生命・安全・健康・食に関する教育の充実
- 体力と発達段階に応じた耐性の育成－教育としての部活動の充実

生徒の成長の基盤となる豊かな人間性と情操そして健全な身体を育むことを全ての教育活動において意識する。道徳の授業はもとより、生徒の心をゆさぶり耕す働きかけや美しいもの優れたものに触れて感動する体験を通して豊かな情操を養う。部活動は、体力・技能の伸長だけでなく、忍耐や努力の大切さを学び、自主性・向上心・協調性を育み人間性を高める場であることを重視し、「部活動に係る方針」に基づき適切な環境づくりに努める。

(5) 地域総合型教育をめざした信頼される学校づくりの推進

- 学校評価に基づく経営の充実－学校評価の丁寧な分析、学校運営協議会の充実と推進
- 地域に開かれた学校づくり－授業参観・学校開放日の設定、各種便り・インターネットによる情報発信
- 地域を愛し地域に愛される生徒の育成－社会参画・地域貢献活動への参加、地域人材の活用
- 信頼される職員集団－保護者との直接対話の重視、チームでの早期対応と相互補完、記録の徹底、教育公務員の矜持を保つ言動

保護者や地域、関係各所に正しい情報を迅速に提供し、教育活動や生徒について理解と支援を得られるよう努める。地域行事への積極的な参加、地域文化の体験、地域諸団体との連携、福祉的な地域貢献活動など地域を知り地域から知ってもらう活動を通して、地域の一員としての自覚や責任感、地域を見つめ郷土を大切にす愛郷心、自分達のできることで地域を活性化する意識を高めると共に、広い視野のもとに考え行動する力、社会の中での自己有用感・規範意識の育成を図る。

(6) 9年間の育ちと学びの連続性・系統性を踏まえた小中一貫教育の推進

- 宮内中学校区4校の小中連携、交流の強化－小中打合せ会の定期開催、校内研究の交流の実施
- 情報の共有と一貫性のある指導－共通実践項目の設定と取組み、生徒指導・進路指導に関わる情報の共有
- 校区における教育観の共有－①相互に人間として無条件に尊重し合う態度でありのままに自分を語り、理解し合う人間関係【共感的人間関係】をつくること ②自分は価値ある存在であること【自己存在感】を実感させる場を工夫すること ③常に『相手』と『自分』の両者を中心にすえながら、自分で判断して決断して実行【自己決定】させる機能を4校で共有

学習の系統性を考慮し、学習のあり方や積み上げ、必要に応じた学びなおしを意識したカリキュラムの工夫、小・中の指導法の学び合いにより確かな学力の向上を図る。

(7) 教職員の「働き方改革」の推進

- 生徒と向き合う時間の確保とライフワークバランスの改善－業務の見直し、重点化、効率化、糊代を意識した組織的取組み
- 定時退庁日の尊重－原則、毎週水曜日を定時退庁日とし、有効に機能するよう意識して日々の業務にあたる
- 弾力的な教育課程の運用－本校で最も繁忙となる時季を乗り切るため、毎週水曜日の5校時設定の他、4校時授業日設定等を試行し、具体的な「働き方改革」の推進を行う
- 土日の部活動運営改革－今後、本格的に進められる「部活動地域移行」に合わせ、土日の部活動運営の改革に努めるため、令和5年度の1学期の間は、毎週第4土日を「原則、学校部活動を行わない」こととする。大会やその他、活動の必要がある場合は、必ず校長の許可を得るものとし行うことができるものとする。
2学期以降の試行については、1学期の成果と課題を検証し対応を図ることとする。
- ウェルビーイングを意識した職員室づくり－職員とっても生徒にとっても来校者にとっても温かさを感じる雰囲気醸成、使いたいときに備品が使える環境管理に配慮する
- 「M1の日」の奨励－互いに年休を取得しやすい環境づくりに努めるとともに、心身の健康保持増進に向けた年休を月1回は取得することを奨励。各学年間で調整し推進する。

8 その他、検討事項等・・・各学年、各分掌部、各部活動等でも積極的に検討する

- ◎ 教職員定数減に対応した業務内容の見直しと改善
- ◎ 「部活動の地域移行」に向けた対応と「任意加入」の在り方等
- ◎ SNSトラブルへの対応とスマホ・携帯電話所持にかかわる指導観共有